

ＪＩＣＡ課題別研修「地域開発計画管理」コースを受け入れました

平成27年10月7日から11月28日にかけて、ブータン、コソボ、ラオス、ミャンマー、パプアニューギニア、タイ、チュニジア、トルコ、ウズベキスタンの9カ国から12名の行政官を本コースの研修員として受け入れました。

この研修は、北海道総合開発の手法を参考として、参加者が自国の地域開発の計画管理・運営等の技術を習得することを目的としており、北海道開発局は、北海道総合開発の体制、計画の推進方策等の講義や、インフラ整備・産業開発事例等の現地視察を組み合わせた研修プログラムを提案し、研修員たちが多くの成果を得られるよう、本研修に協力しました。

【開発局長表敬訪問】



10月13日、来日間もない研修員たちが北海道開発局を訪れ、局長を表敬訪問しました。研修員代表の挨拶は、タイの農業経済局から来た方に本研修に向けての抱負を、日本語を交えて語っていただきました。

【講義の様子】



講義は座学のものもあれば、ディスカッション形式もあり、研修員間で活発な意見交換が行われました。北海道総合開発計画の体制についての講義（左）と地域開発アプローチについてのディスカッション（右）このディスカッションではインフラの整備、中小企業の育成、農業の高次産業化など地域開発に関連する様々な政策の優先順位について、グループを作って討論しました。

【視察】



各地の視察の様子です。北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所（左）では、北海道開拓期の小樽港建設について、職員から説明いただきました。夕張石炭博物館（右）では、石炭産業が盛んだった当時の写真を解説していただき、坑道や石炭層も見学しました。



町村農場の視察（左）では、牛舎や農場で生産している乳製品の販売コーナー等を見学させていただき、農業の高次産業化の実例を学びました。洞爺湖有珠山ジオパーク（右）では災害に対する備え、そして災害をまちづくりに活かす手法について、お話していただきました。

本研修では、それぞれの研修員が、北海道大学教授や北海道開発局職員、JICA職員からアドバイスを受けながら、自国が抱える問題を解決するために本研修で学んだ地域開発の手法をどう活かしていくかを考え、今後の彼らの行動計画を「アクションプラン」としてまとめます。

研修終盤には、彼らが考えたアクションプランの発表会が開催されました。発表されたそれぞれのアクションプランに対して、研修関係者、研修員同士の意見交換が行われました。





北海道開発局開発監理部次長挨拶

アクションプラン発表会の翌日、2ヶ月近く続いた研修の閉講式とフェアウェルパーティーが行われました。北海道開発局からは開発監理部次長が閉講式に出席し、ご挨拶いたしました。各研修員には JICA 北海道所長より修了証書が授与されました。



修了証書授与



研修員代表としてトルコのシルクロード開発庁から来た方から、本研修の感想や、今後の業務に本研修を活かす意気込みが語られました。

フェアウェルパーティーでは研修員全員で歌を披露してくれました。研修で得た様々な知識を自国の発展に活かすのはもちろん、期間中に築いた日本や各参加国との友情も大いに活かし、彼らが国際社会で活躍することが期待されます。

